

授業科目名		担当講師名		対象学年	
人間の理解		福崎 伸吾		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、社会福祉主事（相談指導員）として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	人間の尊厳・尊厳の保持・自立支援				
到達目標及び事前学習	人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性を理解するとともに、介護における倫理的課題についての基礎を養う学習とする。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	人間の尊厳と利用者主体				
2	人権と権利擁護				
3	自立とは（介護を必要とする人々の自立と自立支援）				
4	人間関係とコミュニケーション				
5	自分と他者の理解				
6	発達心理学・社会心理学からみた人間関係				
7	対人関係におけるコミュニケーション				
8	対人援助における基本的態度				
9	傾聴について				
1 0	介護実践におけるチームマネージャーの意義				
1 1	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み				
1 2	介護福祉職のキャリアと求められる実践力				
1 3	介護福祉士としてのキャリアをイメージする				
1 4	スーパービジョンの機能について理解する				
1 5	人間を総合的に理解し、介護実践につなげる能力				
1 6	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	教科書「人間の理解」（中央法規）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
人間関係と コミュニケーションⅠ		大野 健一郎		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、精神保健福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	人間の尊厳・尊厳の保持・自立支援				
到達目標及び及び 事前学習	人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性を理解するとともに、介護における倫理的課題についての基礎を養う学習とする。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	人間の尊厳と人権				
2	〃				
3	福祉理念とは				
4	〃				
5	人権尊重と権利擁護				
6	〃				
7	自立のあり方と多様性				
8	〃				
9	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立				
1 0	〃				
1 1	人間関係とコミュニケーションの方法				
1 2	〃				
1 3	対人関係におけるコミュニケーションの方法				
1 4	〃				
1 5	受容・傾聴・バイステックの 7 原則について				
1 6	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「人間の理解」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
人間関係と コミュニケーションⅡ		大野 健一郎		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、精神保健福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	人間の尊厳・尊厳の保持・自立支援				
到達目標及び及び 事前学習	人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性を理解するとともに、介護における倫理的課題についての基礎を養う学習とする。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	自己理解について				
2	他者理解について				
3	演習 ロールプレイ				
4	演習 ロールプレイ				
5	演習 カウンセリングの技術				
6	演習 カウンセリングの技術				
7	介護実践におけるチームマネジメントの意義				
8	介護実践におけるチームマネジメントの意義				
9	ケアを展開するためのチームマネジメントについて				
1 0	ケアを展開するためのチームマネジメントについて				
1 1	介護福祉職のキャリアと求められる実践力				
1 2	介護福祉職としてのキャリアデザイン				
1 3	スーパービジョンの機能について理解する				
1 4	演習 ブレインストーミング				
1 5	演習 ブレインストーミング				
1 6	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「働くひとの心理学」(ナカニシ出版)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
社会の理解 I		西牟田 智子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	社会保障 介護保険制度				
到達目標及び及び 事前学習	従来、個人や家族間で行われてきた「支援」を、現在は「社会」が中心となって行っている理由を自分なりに整理し、その理由を理解する。その理由に対して、自分なりの意見を表明できるようになることが課題である。また、考えや意見はその時点での正解を求めるよりもディスカッションを通して新しい階段に考えて発展させることを課題とする。尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性を理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	第 1 章 社会と生活のしくみ				
2	個人のくらしを理解するため、地域社会の単位で人間を捉える視点を養う。				
3	自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。				
4	ライフスタイルお変化について				
5	少子高齢化と健康寿命について				
6	第 2 章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策				
7	個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉える。				
8	社会保障制度から介護保険制度など社会における様々な諸制度における歴史や変遷、見直しなどを総合的に理解する。				
9	地域共生社会をめざす社会的背景				
1 0	地域包括ケアとは				
1 1	第 3 章 社会保障制度について				
1 2	社会保障の意義と役割について				
1 3	社会保障の目的と機能について				
1 4	社会保障制度の歴史を学ぶ				
1 5	介護保険と福祉の考え方の変化				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「社会の理解」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	授業におけるミニテスト、授業態度				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
社会の理解Ⅱ		吉村 あゆみ		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	社会保障 介護保険制度				
到達目標及び及び 事前学習	従来、個人や家族間で行われてきた「支援」を、現在は「社会」が中心となって行っている理由を自分なりに整理し、その理由を理解する。その理由に対して、自分なりの意見を表明できるようになることが課題である。また、考えや意見はその時点での正解を求めるよりもディスカッションを通して新しい階段に考えて発展させることを課題とする。尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性を理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	第3章 日本の社会保障制度のしくみ				
2	年金保険について				
3	医療保険について				
4	介護保険について				
5	雇用保険と労働者災害補償保険について				
6	各種社会扶助について				
7	第4章 高齢者保健福祉の動向				
8	人口の高齢化と高齢者保健福祉について				
9	高齢社会対策基本法について				
10	老人福祉法について				
11	第5章 障がい者保健福祉制度について				
12	障がい者保健福祉の法律について				
13	障がい者総合支援制度について				
14	第6章 介護実践に関連する諸制度				
15	虐待防止に関する制度・施策				
16	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「社会の理解」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
健康科学		上原 恵美子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、中学教諭（保健体育含む）として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	健康の定義、WHO、スポーツ活動、健康維持、国際生活機能分類 等				
到達目標及び及び 事前学習	WHOの「健康」定義・現代社会の健康阻害要因、運動不足の実態・身体運動と健康、体力の概念・体力の概念・体力の構成要素、運動処方に関する知識や技術を理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	スポーツの概念の広がりとは本質的特性を学ぶ				
2	余暇社会とスポーツ～余暇とは・増大する自由時間について				
3	余暇社会とスポーツ～余暇社会とスポーツについて				
4	地域社会とスポーツとは				
5	国民のレジャー活動とスポーツとは				
6	国民スポーツの諸相～学校、職場スポーツの問題				
7	国民スポーツの諸相～商業主義とスポーツ・地域スポーツの問題				
8	スポーツにおけるインテグリティの理解、指導者の資質、能力とは				
9	健康という言葉・健康観の変遷について				
1 0	WHOの「健康」定義・現代社会の健康阻害要因				
1 1	〃				
1 2	運動不足の実態・身体運動と健康について				
1 3	運動処方～運動の種類について・運動の強度について				
1 4	運動処方～運動の継続時間について・運動の頻度について				
1 5	体力の概念・体力の構成要素とは				
1 6	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「健康科学」（近畿大学九州短期大学）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
家庭支援論		吉村 喜美代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	家族の定義、地域社会、少子化と家族関係、子育て支援、家族援助 等				
到達目標及び 事前学習	現代社会をとりまく社会環境における家族生活、特にその人間関係の在り方、社会や個人に対して家族が果たしている諸機能及び「少子化」「高齢化」「家族の多様化」等の現象について理解し、対象者やその家族に対する援助の工夫及び公的機関との連携について理解させる。				
1	家庭支援の対象と役割				
2	子どもと家庭				
3	保育者による家庭支援				
4	家庭支援の方法としての保育相談支援				
5	〃				
6	特別なニーズを有する家庭への支援				
7	〃				
8	家庭への個別的な支援				
9	在宅子育て家庭への支援				
1 0	社旗的養護を要する家庭への支援				
1 1	家庭支援に関わる法・制度				
1 2	子どもと家庭を支える機関や人				
1 3	子どもと家庭を支援する事業				
1 4	家庭支援や地域の子育て支援の実際				
1 5	〃				
1 6	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「よくわかる家庭支援論」（ミネルヴァ書房）				
使用機器等					
成績評価の方法	レポート、筆記試験、授業態度				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
子どもの食と栄養		向井 祐美		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、管理栄養士として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	小児栄養、成長と発達、健康、栄養障害、集団給食、献立作成、食育				
到達目標及び及び 事前学習	小児の成長・発達・栄養の基礎を理解したうえで、小児期から成人に至るまでの健康を保持・増進するために栄養及びその機序について学ぶ。小児の各発達段階での適切な食品を知り、その段階に応じた献立作成の能力を身につけること、また栄養障害の問題について学ぶ。				
1	子どもの健康と食生活の意義について				
2	栄養に関する基本的知識				
3	食育の意義と内容について				
4	子どもの発育・発達と食生活				
5	〃				
6	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント				
7	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活				
8	〃				
9	幼児期の心身の発達と食生活				
1 0	〃				
1 1	学齢期・思春期の心身の発達と食生活				
1 2	〃				
1 3	調理実習				
1 4	調理実習				
1 5	特別な配慮を要する子どもの食と栄養				
1 6	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	新保育ライブラリ・子どもの食と栄養（北大路書房）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験・ノート提出				
備考	調理実習を行う				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護の基本 I		森 悦郎		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	1 年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、作業療法士及び相談指導員として、実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	尊厳の保持、自立支援、リハビリテーション、ADL、QOL、ICF				
到達目標及び及び 事前学習	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。他職種との協働や自立に向けたリハビリテーションの考え方・生活リハビリについて理解する。				
1	介護福祉とは 介護の成り立ち				
2	専門職による「介護」が誕生した社会的な背景				
3	1970年代の介護				
4	1980年代の介護				
5	1990年代の介護				
6	2000年代の介護				
7	介護福祉の理念とは				
8	尊厳を支える介護				
9	自立を支える介護				
10	地域包括ケアシステムとは				
11	介護予防について				
12	医療的ケアについて				
13	社会福祉士及び介護福祉士法について				
14	〃				
15	介護福祉士の義務規定について				
16	求められる介護福祉士像について				
17	〃				
18	日本介護福祉士会について				
19	日本介護福祉養成施設協会について				
20	日本介護福祉学会について・日本介護福祉教育学会について				
21	介護福祉士の倫理について				
22	日本介護福祉士倫理綱領について				
23	〃				
24	自立支援の考え方について				
25	ICF とは				
26	介護における ICF のとらえ方				
27	自立支援とリハビリテーションについて				

2 8	リハビリテーションの実際
2 9	〃
3 0	介護予防における介護福祉士の役割とは
3 1	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「介護の基本Ⅰ」（中央法規）
使用機器等	パソコン・プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護の基本Ⅱ		谷村 志寿江		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	2 年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	生活、その人らしさ、個別ケア				
到達目標及び及び 事前学習	介護を必要とする人と生活の理解：介護は人生と生活の質（QOL）を高める視点を理解し、援助の方法を学ぶ。				
1	私たちの生活を理解する				
2	生活にとって大切なこととは				
3	生活の質（QOL）について				
4	マズローの 5 段階欲求説を理解する				
5	介護を必要とする人の暮らしとは（高齢者）				
6	介護を必要とする人の暮らしとは（障がい者）				
7	「その人らしさ」とは何か				
8	「生活にニーズ」の理解				
9	社会的サービスの理解				
1 0	私的サービスの理解				
1 1	地域連携の意義と目的				
1 2	〃				
1 3	介護における安全の確保につて				
1 4	リスクマネジメントとは何か				
1 5	〃				
1 6	多職種連携について				
1 7	〃				
1 8	多職種連携・協働のための留意点				
1 9	①保健・医療・福祉職の役割と機能について				
2 0	②保健・医療・福祉職の役割と機能について				
2 1	③保健・医療・福祉職の役割と機能について				
2 2	④保健・医療・福祉職の役割と機能について				
2 3	⑤保健・医療・福祉職の役割と機能について				
2 4	介護従事者の安全について				
2 5	こころの管理				
2 6	〃				
2 7	身体管理				
2 8	〃				

2 9	労働環境の整備について
3 0	〃
3 1	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「介護の基本Ⅱ」（中央法規）
使用機器等	パソコン・プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護の基本Ⅲ		福 将太		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	3 年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	リスクマネジメント、安全、衛生、チームアプローチ、ヒヤリハット、スーパービジョン				
到達目標及び及び 事前学習	リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。				
1	<u>安全の概念について</u> (セーフティ・マネジメントの過程と評価)				
2	〃				
3	転倒や転落防止・骨折予防・観察と多面的予測について				
4	利用者に合った生活支援技術の工夫について				
5	〃				
6	転倒や転落防止・骨折予防・観察と多面的予測について				
7	〃				
8	施設内事故の特徴と対策・環境改善について				
9	〃				
1 0	利用者に合った生活支援技術の工夫について				
1 1	〃				
1 2	在宅での事故の特徴と対策について				
1 3	〃				
1 4	施設内事故の特徴と対策・環境改善について				
1 5	〃				
1 6	生活の安全 (消費者被害について)				
1 7	生活の安全 (消費者被害について)				
1 8	受療援助・服薬・医療行為へのチームアプローチについて				
1 9	受療援助・服薬・医療行為へのチームアプローチについて				
2 0	緊急・事故時対応・救急対応の実際について				
2 1	災害時ネットワークや地域防災について				
2 2	感染予防の意義と症状について				
2 3	〃				
2 4	感染管理と衛生管理について				
2 5	〃				
2 6	感染予防の具体的対応と関係法規について				
2 7	〃				

2 8	ヒヤリハット事例の分析（原因と対策の実際）
2 9	〃（熱中症,転倒,水分補給など）
3 0	〃（救命手当, 応急手当,AED など）
3 1	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」（中央法規）
使用機器等	パソコン・プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	テキスト「介護の基本Ⅱ」
使用機器等	
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
コミュニケーション技術Ⅰ		山名 真由美		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実技	1(40)	2年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、手話通訳士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	聴覚障害者、コミュニケーション、手話、言語、ろう者				
到達目標及び及び 事前学習	聴覚障害の種類や原因、ことばの発達と聞こえ、手話のコミュニケーション方法など聴覚障害についての基礎を学習する。				
1	聴覚障害とは 手話の意義				
2	非言語的コミュニケーションとは				
3	伝えあってみましょう				
4	名前を紹介しましょう 指文字について				
5	家族を紹介しましょう				
6	数を使って話しましょう				
7	趣味について話しましょう				
8	仕事について話しましょう				
9	住所を紹介しましょう				
10	一日のことを話しましょう				
11	一か月のことを話しましょう				
12	パーティーのことを話しましょう				
13	旅行のことを話しましょう				
14	病院のことを話しましょう				
15	学校のことを話しましょう				
16	職場のことを話しましょう				
17	手話コーラス				
18	〃				
19	手話でスピーチをしましょう				
20	ろう者とのフリーディスカッション				
21	実技試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	「手話を学ぼう 手話で話そう」 (全国手話研修センター)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記・実技試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
コミュニケーション技術Ⅱ		谷村 志寿江		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (20)	1 年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	介護、人間関係、援助関係、構築、傾聴、受容、言語・非言語、家族、チーム				
到達目標及び 事前学習	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。				
1	コミュニケーションとは				
2	コミュニケーションの過程、手段、方法				
3	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション				
4	介護におけるコミュニケーション				
5	自己覚知とは 価値観の違いを学ぶ				
6	受容とは				
7	傾聴とは				
8	コミュニケーション障害のある人への支援（視覚障害・聴覚障害）				
9	コミュニケーション障害のある人への支援（失語症・高次脳機能障害）				
1 0	介護におけるチームのコミュニケーション（報連相・記録）				
1 1	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「コミュニケーション技術」（中央法規）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
生活支援技術Ⅰ		重信 千代乃・向井 祐美 大町 千加子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	1 年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、二級建築士、管理栄養士、一級衣料管理士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	生活支援 居住環境 福祉用具 家事 応急手当				
到達目標及び及び 事前学習	自立に向けた居住環境の整備を学習し、また「身じたく」の介護のプロセスと方法を学ぶ。				
1	生活支援とは何か				
2	ライフサイクルと生活の豊かさについて				
3	生活空間と介護の視点から日本の住まいと気候風土				
4	住まいの変化と生活との関係				
5	快適な室内環境の確保（光・音・熱・空気）について				
6	障害者の行動の特性と生活空間について				
7	高齢者の行動の特性と生活空間について				
8	安全で心地よい生活の場づくり（ユニバーサルデザイン・ユニットケア）				
9	衣服の機能・役割について				
1 0	洗濯の意義・洗濯マークの理解				
1 1	実験 洗濯の汚れ落とし				
1 2	〃				
1 3	裁縫の基本				
1 4	〃				
1 5	裁縫の応用（ペンタゴンボールづくり）				
1 6	〃				
1 7	人間にとって「食」とは（食事の意義と目的）				
1 8	食を支える介護（栄養について自立に向けた食事の介護①）				
1 9	食を支える介護（栄養について自立に向けた食事の介護②）				
2 0	高齢者の食事の工夫について				
2 1	食事を助ける自助具について				
2 2	演習 調理技術の習得①				
2 3	演習 調理技術の習得②				
2 4	演習 調理技術の習得③				
2 5	演習 調理技術の習得④				
2 6	演習 調理技術の習得⑤				
2 7	演習 調理技術の習得⑥				

2 8	演習 調理技術の習得⑦
2 9	演習 調理技術の習得⑧
3 0	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「生活支援技術Ⅰ」（中央法規）
使用機器等	
成績評価の方法	筆記試験、作品提出
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
生活支援技術Ⅱ		谷村 志寿江・福 将太 貞元 希美		1・2・3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実技	6 180)	介護実習室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	介護技術の習得、身じたく、食事介助、移動介助、清潔の保持				
到達目標及び及び 事前学習	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活の継続 できるよう、残存機能を活用し根拠に基づいた介護実践を行うための知 識・技術を学ぶ				
1	自立した身じたくとは				
2	自立した身じたくの一連の流れ				
3	環境整備の重要性				
4	ベッドメイキングの意義と実際				
5	演習 ベッドメイキング				
6	〃				
7	〃				
8	〃				
9	〃				
1 0	〃				
1 1	実技試験（ベッドメイキング）				
1 2	〃				
1 3	演習 洗顔の介助				
1 4	演習 整髪介助				
1 5	演習 爪の手入れの介助				
1 6	演習 口腔ケアの実際				
1 7	着脱介助の留意点				
1 8	演習 着脱介助の実際				
1 9	〃				
2 0	〃				
2 1	〃				
2 2	〃				
2 3	食事介助の留意点				
2 4	演習 食事介助の実際				
2 5	〃				
2 6	〃				
2 7	〃				

2 8	演習 着脱介助の実際
2 9	〃
3 0	〃
3 1	〃
3 2	実技試験（着脱介助）
3 3	〃
3 4	〃
3 5	誤嚥防止の留意点
3 6	入浴介助の留意点
3 7	清潔保持の留意点
3 8	排泄の意義と方法
3 9	演習 排泄介助の実際（排泄方法の選択）
4 0	〃（トイレでの排泄介助方法）
4 1	〃（ポータブルトイレでの排泄介助方法）
4 2	〃（立位でのパッド交換の介助）
4 3	〃（尿器・差し込み便器での排泄の介助）
4 4	〃（おむつで排泄の介助）
4 5	頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応
4 6	実技試験（排泄）
4 7	〃
4 8	〃
4 9	〃
5 0	休息・睡眠とは
5 1	睡眠の効果について
5 2	安眠を促すために介護
5 3	睡眠障害とは
5 4	終末ケアとは
5 5	終末ケアのアセスメントの視点
5 6	死をむかえる人の介護
5 7	死をむかえた人の介護
5 8	亡くなった人の介護（グリーフケア）
5 9	死が近づいたときの日常生活の変化
6 0	まとめ（終講試験）
6 1	演習 移動介助の実際（移動介助の方法）
6 2	〃（ボディメカニクス）
6 3	〃（車いすの介助方法）
6 4	〃（ベッド上での介助方法）
6 5	〃（さまざまな移乗方法）

6 6	実技試験（移動）
6 7	〃
6 8	〃
6 9	〃
7 0	介護実技試験について
7 1	介護福祉士実技試験の演習①
7 2	介護福祉士実技試験の演習②
7 3	介護福祉士実技試験の演習③
7 4	介護福祉士実技試験の演習④
7 5	介護福祉士実技試験の演習⑤
7 6	介護福祉士実技試験の演習⑥
7 7	介護福祉士実技試験の演習⑦
7 8	介護福祉士実技試験の演習⑧
7 9	介護福祉士実技試験の演習⑨
8 0	介護福祉士実技試験の演習⑩
8 1	介護福祉士実技試験の演習⑪
8 2	介護福祉士実技試験の演習⑫
8 3	介護福祉士実技試験の演習⑬
8 4	介護福祉士実技試験の演習⑭
8 5	介護福祉士実技試験の演習⑮
8 6	学内実技試験の実施
8 7	〃
8 8	〃
8 9	〃
9 0	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「生活支援技術Ⅱ」（中央法規） 参考書「絵で見る介護」（医学評論社）
使用機器等	
成績評価の方法	実技試験 筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
生活支援技術Ⅲ		福 将太・貞元 希美		2・3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	2・3年生 教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	身体障害 知的障害 精神障害 高次機能障害 発達障害 難病				
到達目標及び及び 事前学習	① 障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解すること ② 生活上の困りごとを理解すること 障害疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解すること				
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは				
2	肢体不自由に応じた介護の留意点と実際				
3	〃				
4	視覚障害に応じた介護の留意点と実際				
5	〃				
6	聴覚・言語障害に応じた介護の留意点と実際				
7	〃				
8	重複障害（盲ろう）に応じた介護の留意点と実際				
9	〃				
10	【内部障害】心臓機能障害に応じた介護の留意点と実際				
11	〃				
12	【内部障害】呼吸器機能障害に応じた介護の留意点と実際				
13	〃				
14	【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護の留意点と実際				
15	〃				
16	【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護の留意点と実際				
17	〃				
18	【内部障害】小腸機能障害に応じた介護の留意点と実際				
19	〃				
20	【内部障害】肝機能障害に応じた介護の留意点と実際				
21	〃				
22	【難病】筋萎縮性側索硬化症に応じた介護の留意点と実際				
23	〃				
24	【難病】パーキンソン病に応じた介護の留意点と実際				
25	〃				
26	【難病】悪性関節リュウマチに応じた介護の留意点と実際				

2 7	〃
2 8	【発達障害】【知的障害】【精神障害】応じた介護の留意点と実際
2 9	〃
3 0	〃
3 1	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「生活支援技術Ⅲ」（中央法規）
使用機器等	パソコン・プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護過程Ⅰ		武島 智代美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	1 年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士及び介護支援専門員として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	アセスメントとケアプラン、介護計画立案、介護過程の実践的展開				
到達目標及び及び 事前学習	介護福祉士として働く歳の根幹となる思考過程を獲得し高めていけるように、能力を捉える視点を I C F に焦点を定め、「介護過程の展開」という思考過程を身につける意義を、講義・演習を通して学ぶ。				
1	介護過程とは				
2	介護過程の理解				
3	ICF の考え方				
4	〃				
5	介護過程の実践的展開				
6	利用者の生活と介護過程の展開				
7	介護過程の実践的展開 事例①（グループワーク）				
8	〃				
9	まとめ・発表				
1 0	介護過程の実践的展開 事例②（グループワーク）				
1 1	〃				
1 2	まとめ・発表				
1 3	介護過程の実践的展開 事例③（グループワーク）				
1 4	〃				
1 5	まとめ・発表				
1 6	情報収集とは				
1 7	情報の解釈・関連付け				
1 8	情報の統合化				
1 9	介護計画の立案				
2 0	介護計画の実施の留意点				
2 1	介護目標の設定				
2 2	具体的な支援内容・支援方法の決定				
2 3	評価の意義と目的				
2 4	評価の内容と方法				
2 5	事例を読んで、介護計画を立案してみよう				
2 6	〃				
2 7	〃				
2 8	〃				

2 9	まとめ・発表
3 0	介護計画を評価してみよう
3 1	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「介護過程」（中央法規）
使用機器等	
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護過程Ⅱ		増本 智奈海		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2(60)	2年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士及び介護支援専門員として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	アセスメント・ケアマネジメント				
到達目標及び及び 事前学習	介護サービス利用者が生活する環境を考慮し、既存のサービスや社会資源を活用した介護過程を展開できるようになるとともに、常に社会の動きに関心を持つことの重要性を理解し、その方法を行うことができるようになる。また、専門職の一員として他職種との連携を行うことができるようになる。				
1	ICFの振り返り				
2	介護過程の実践的展開 事例④(グループワーク)				
3	〃				
4	まとめ・発表				
5	介護過程の実践的展開 事例⑤(グループワーク)				
6	〃				
7	まとめ・発表				
8	介護過程の実践的展開 事例⑥(グループワーク)				
9	〃				
10	まとめ・発表				
11	介護過程とチームアプローチ				
12	介護過程とケアマネジメントの関係性				
13	チームアプローチにおける介護福祉士の役割(介護過程の視点から)(演習)				
14	〃				
15	介護過程の実際の展開 実習の振り返りから実践的展開を学ぶ(演習)				
16	〃				
17	フェイスシートとアセスメントツールへの記載(演習)				〃
18	〃				
19	ケアカンファレンスの実際(演習)				
20	〃				
21	チームアプローチの意義				
22	〃				
23	チームアプローチの実際				
24	〃				
25	介護過程とケアマネジメントの関係性				
26	〃				
27	チームアプローチの実際				

2 8	〃
2 9	介護過程とケアマネジメントの関係性
3 0	〃
3 1	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「介護過程」（中央法規）
使用機器等	
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護過程Ⅲ		谷村 志寿江		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	3年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	個別援助 集団援助				
到達目標及び 事前学習	すべての支援の方法・手順には意味や理由があり、それを自身で考え、説明できる。 また、それが家族との関係構築の一步になる事例を通し理解できる。				
1	具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）				
2	老人・障害者の介護場面における個別援助技術活用の実際				
3	〃				
4	〃				
5	〃				
6	老人・障害者の介護場面における集団援助技術活用の実際				
7	〃				
8	〃				
9	〃				
10	事例に基づき、居宅サービス計画及び施設サービス計画の実際の演習				
11	〃				
12	〃				
13	〃				
14	具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）				
15	〃				
16	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「介護過程」（中央法規）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護総合演習Ⅰ		谷村 志寿江・福 将太 貞元 希美		1・2・3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	1・2・3 年教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	目標設定 記録方法 実習事後発表会				
到達目標及び及び 事前学習	在宅ケアに関する介護の実際や居宅サービスについての理解を深める。 実際に在宅を訪問し、生活の場に入る体験を通し、個別の介護展開を学ぶ。 グループホームやケアハウスでの介護業務を通し、介護サービスの理解を 深める。利用者との人間的ふれあいを通じて、利用者のニーズと介護の機 能を知り、介護福祉士としての姿勢や役割について理解できる。				
1	実習の目的				
2	実習の意義				
3	実習の心得				
4	在宅ケアとは				
5	さまざまな在宅ケア				
6	デイサービス、デイケアとは				
7	実習事前準備				
8	実習事前準備				
9	実習事後指導				
10	実習事後指導				
11	実習報告会の実施				
12	実習報告会の実施				
13	グループホームとは				
14	認知症の理解とコミュニケーション方法				
15	小規模多機能型居宅介護とは				
16	実習事前準備				
17	実習事前準備				
18	実習事後指導				
19	実習事後指導				
20	実習報告会の実施				
21	実習報告会の実施				
22	訪問介護事業所とは				
23	実習事前準備				
24	実習事前準備				
25	実習事後指導				

2 6	実習事後指導
2 7	実習事後指導
2 8	実習報告会の実施
2 9	実習報告会の実施
3 0	まとめ
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書 介護総合演習・介護実習（中央法規）
使用機器等	
成績評価の方法	レポート、記録、発表
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護総合演習Ⅱ		谷村 志寿江・福 将太 貞元 希美		1・2・3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	1・2・3 年教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	介護計画の立案、実施、評価、実習事後発表会				
到達目標及び及び 事前学習	介護実習Ⅱにおける目的を理解し、事前準備ができる。利用者を総合的に理解し、介護計画立案への準備事前・事後評価ができる。				
1	施設実習の目的				
2	施設実習の意義				
3	施設実習の心得				
4	特別養護老人ホームとは				
5	〃				
6	介護老人保健施設とは				
7	〃				
8	障がい者支援施設とは				
9	〃				
10	実習事前準備（記録の書き方）				
11	実習事前準備（記録の書き方）				
12	実習事前準備				
13	実習事前準備				
14	実習事前準備				
15	実習事後指導				
16	実習事後指導				
17	実習事後指導				
18	実習事後指導				
19	実習事後指導				
20	レポートまとめ				
21	レポートまとめ				
22	レポートまとめ				
23	レポートまとめ				
24	レポートまとめ				
25	レポートまとめ				
26	実習報告会の実施				
27	実習報告会の実施				
28	実習報告会の実施				

29	実習報告会の実施
30	実習報告会の実施
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書 介護総合演習・介護実習（中央法規）
使用機器等	
成績評価の方法	レポート、記録、発表
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護実習Ⅰ（居宅）		谷村 志寿江・福 将太 貞元 希美		1・2・3年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
実習	4（120）	実習	後期	実習計画の通り	
実務経験	本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による指導のものと実習				
授業のキーワード	コミュニケーション				
到達目標及び及び 事前学習	利用者との人間的ふれあいを通じてコミュニケーション技術を高める。施設の役割、業務内容を知ることにより、介護福祉士の職務の内容を深める。 演習・学内実習等で学んだ知識に基づき、現場での実習を通し、介護のニーズを理解する。				
授業計画（コマ）	授 業 内 容				
1～20	デイサービス、デイケア等での実習（5日間）				
21～40	グループホーム、小規模多機能事業所等での実習（5日間）				
41～60	訪問介護事業所等での実習（5日間）				
履修上の要件	介護実習Ⅱ（施設と合わせて450時間以上の実習）				
テキスト、教材、 参考書	教科書 介護総合演習・介護実習（中央法規）				
使用機器等					
成績評価の方法	実習評価・記録				
備考					
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書					
使用機器等					
成績評価の方法					
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
介護実習Ⅱ（施設）		谷村 志寿江・福 将太 貞元 希美		１・２・３年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
実習	１１（330）	実習	通年	実習計画の通り	
実務経験	本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による指導のものと実習				
授業のキーワード	介護計画の立案、実施、評価、夜勤実習				
到達目標及び及び 事前学習	利用者との人間的ふれあいを通じてコミュニケーション技術を高める。施設 の役割、業務内容を知ることにより、介護福祉士の職務の内容を深める。 演習・学内実習等で学んだ知識に基づき、現場での実習を通し、介護のニー ズを理解する。				
授業計画（コマ）	授 業 内 容				
１～２０	施設実習（５日間）				
２１～８５	施設実習（１６日間）夜勤実習１日間含む				
８６～１７０	施設実習（２３日間）夜勤実習２日間含む				
履修上の要件	介護実習Ⅰ（施設と合わせて４５０時間以上の実習）				
テキスト、教材、 参考書	教科書 介護総合演習・介護実習（中央法規）				
使用機器等					
成績評価の方法	実習評価・記録				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
こころとからだのしくみⅠ		笹原 徹郎		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	1 年生教室	不定期
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	健康、こころ、食事、からだ、睡眠、死				
到達目標及び事前学習	介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	「健康」とは何か 健康の定義				
2	人間の欲求とは (基本的欲求)				
3	人間の欲求とは (社会的欲求)				
4	自己実現とは				
5	「こころ」とは何か				
6	脳のしくみ				
7	認知のしくみ				
8	〃				
9	学習・記憶・思考のしくみ				
1 0	〃				
1 1	感情・情動のしくみ				
1 2	〃				
1 3	意欲・動機付けのしくみ				
1 4	適応のしくみ				
1 5	〃				
1 6	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書	教科書「こころとからだのしくみ」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
こころとからだのしくみⅡ		貞元 希美		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	2年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	健康、こころ、食事、からだ、睡眠、死				
到達目標及び 事前学習	介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	オリエンテーション (こころとからだのしくみⅡ)				
2	移動のしくみ				
3	(演習) 安定した姿勢				
4	心身の機能低下が移動に及ぼす影響				
5	変化の気づきと対応				
6	(演習) 利用者の変化の気づきと対応				
7	身じたくのしくみ				
8	(演習) 口腔の観察				
9	(演習) 口臭の予防と対応				
10	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響				
11	変化の気づきと対応				
12	食事のしくみ				
13	摂食嚥下の5分類と内容				
14	心身の機能低下が食事に及ぼす影響				
15	変化の気づきと対応				
16	入浴・清潔保持のしくみ				
17	(演習) 入浴の効果				
18	(演習) 陰部・肛門の清潔				
19	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響				
20	(演習) 皮膚の変化に合わせた入浴・清拭時の留意点				
21	変化の気づきと対応				
22	(演習) 清潔保持の際の注意点と対応				
23	排泄のしくみ				
24	(演習) 尿排泄と便排泄のしくみ				
25	(演習) 利用者の状態から考える排泄の問題点とその原因				
26	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響				
27	(演習) 排尿障害の種類と特徴				
28	(演習) 便失禁の原因				

2 9	変化の気づきと対応
3 0	排泄での医療職との連携のポイント
3 1	まとめ（終講試験）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「こころとからだのしくみ」（中央法規）
使用機器等	
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
こころとからだのしくみⅢ		西村 文美		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	3年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	健康、こころ、食事、からだ、睡眠、死				
到達目標及び 事前学習	介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ				
2	休息・睡眠のしくみ				
3	(演習) レム睡眠とノンレム睡眠				
4	(演習) 快適に眠るための寝室の工夫				
5	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響				
6	(演習) 不眠症と睡眠障害				
7	変化に気づくためのポイント				
8	人生の最終段階における「死」のとらえ方				
9	「死」に対するこころの理解				
10	(演習) キューブラー・ロスの死の受容プロセス				
11	終末期から危篤状態、死後のからだの理解				
12	(演習) 終末期のバイタルサインの変化				
13	終末期における医療職との連携				
14	国家試験対策 (こころとからだのしくみ) ①				
15	国家試験対策 (こころとからだのしくみ) ②				
16	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「こころとからだのしくみ」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
発達と老化の理解 I		喜入 厚		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	人間の成長と発達、加齢、老化、高齢者の心理				
到達目標及び及び 事前学習	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	オリエンテーション				
2	成長・発達の考え方				
3	成長発達の原則・法則				
4	成長・発達に影響する要因				
5	発達理論				
6	発達段階と発達課題				
7	身体的機能の成長と発達				
8	心理的機能の発達				
9	社会的機能の発達				
1 0	(演習) エリクソンの発達段階・ピアジェの認知発達理論・愛着				
1 1	老年期の定義				
1 2	老化とは				
1 3	老年期の発達課題				
1 4	老年期をめぐる今日的課題				
1 5	(演習) 喪失と喪失体験・バルテスの発達理論による老年期の特徴				
1 6	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書					
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
発達と老化の理解Ⅱ		喜入 厚		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	3年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	人間の成長と発達、加齢、老化、高齢者の心理				
到達目標及び事前学習	高齢者の身体機能及び心理を医学的な視点から学習する。また、介護福祉士として保健医療職との連携について学ぶ。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	老化にともなう身体的な変化と生活への影響				
2	老化にともなう心理的な変化と生活への影響				
3	(演習) 記憶と知能・適応機制				
4	老化にともなう社会的な変化と生活への影響				
5	健康長寿に向けての健康				
6	高齢者の症状・疾患の特徴				
7	高齢者の症状・疾患の特徴②				
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①骨格・脳・皮膚				
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②循環器・呼吸器・消化器系				
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③腎・泌尿器・内分泌・歯・口腔				
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④悪性新生物・感染症・精神疾患				
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤その他				
13	(演習) 高齢者に多い疾患				
14	保健医療職との連携①				
15	保健医療職との連携②				
16	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、参考書					
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
認知症の理解 I		喜入 厚		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	認知症、脳、心理、B P S D、家族、コミュニケーション、認知症ケア				
到達目標及び及び 事前学習	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	認知症の基礎理解				
2	認知症とは何か				
3	脳のしくみ				
4	認知症の人の心理				
5	中核症状の理解				
6	生活障害の理解				
7	BPSD の理解				
8	認知症の診断と重症度				
9	認知症の原因疾患と症状・生活障害				
1 0	認知症の治療薬				
1 1	認知症の予防				
1 2	認知症を取り巻く状況 これまで-今-これから				
1 3	認知症ケアの理念と視点				
1 4	認知症ケアの理念の理解				
1 5	認知症当事者の視点から見えるもの				
1 6	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、参考書	最新 介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
認知症の理解Ⅱ		喜入 厚		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	3年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	認知症、脳、心理、B P S D、家族、コミュニケーション、認知症ケア				
到達目標及び及び 事前学習	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	パーソン・センタード・ケア				
2	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール				
3	認知症の人とのコミュニケーション				
4	認知症の人へのケア				
5	清潔保持のケア				
6	認知症の人への様々なアプローチ				
7	認知症の人の終末期医療と介護				
8	環境づくり				
9	心地よい環境づくり				
1 0	家族への支援				
1 1	介護福祉職への支援				
1 2	ケアモデルを実践するための環境整備				
1 3	制度、サービス、機関、地域づくり				
1 4	多職種連携と協働				
1 5	多職種連携と協働の実践				
1 6	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、参考書	最新 介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
障害の理解 I		辻原 広文		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (18)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、社会福祉主事として実務経験のある教員によるとして実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	ノーマライゼーション 支援 障害スポーツ				
到達目標及び及び 事前学習	介護と医療の連携をふまえた実践力の向上を前提として、障害のある人の心理や身体機能を理解し、障害スポーツの楽しみ方や留意点などを学ぶ。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	障がい者福祉の基本理念				
2	障がい者スポーツの意義と理念				
3	障がい者スポーツに関する諸施策について				
4	障がい者スポーツ,レクリエーションの方法や留意点				
5	〃				
6	〃				
7	全国障がい者スポーツ大会の概要				
8	地域における障がい者スポーツ大会の概要				
9	障がい者スポーツ大会の参加及び運営に関するボランティア活動				
履修上の要件					
教材、参考書	教科書「障害の理解」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験及び総合的な授業への取り組みへの評価				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
障害の理解 I		蓑毛 良助		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (12)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、養護学校教諭として実務経験のある教員によるとして実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	ノーマライゼーション 支援				
到達目標及び及び 事前学習	介護と医療の連携をふまえた実践力の向上を前提として、障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人の生活支援について学ぶ。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	障害の概念				
2	障害者福祉の基本理念①				
3	障害者福祉の基本理念②				
4	障害者福祉に関する制度				
5	障害者福祉制度と介護保険制度				
6	障害のある人の心理				
履修上の要件					
教材、参考書	教科書「障害の理解」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
障害の理解Ⅱ		永井 幹丈		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、精神保健福祉士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	知的障害、精神障害、チームアプローチ				
到達目標及び 事前学習	介護と医療の連携をふまえた実践力の向上を前提として、障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人の生活支援について学ぶ。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	知的障害とは①				
2	知的障害とは②				
3	精神障害とは①				
4	精神障害とは②				
5	高次脳機能障害とは①				
6	高次脳機能障害とは②				
7	発達障害とは①				
8	発達障害とは②				
9	難病とは				
10	障害の基礎的な理解				
11	地域のサポート体制				
12	チームアプローチ				
13	連携と協働の基礎的な理解				
14	家族への支援とは				
15	家族の介護力の評価と介護負担の軽減				
16	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
教材、参考書	教科書「障害の理解」(中央法規)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
医療的ケア（講義＋演習）		益田 祐子		3 年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義＋演習	3（90）	3 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として、実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	救急蘇生法 感染予防 医療的ケアを安全・適切に実施				
到達目標及び 事前学習	各手技に必要な知識・技術を学び基本研修を終了することができる。				
1	オリエンテーション 法改正と医療的ケア導入について				
2	人間と社会 個人の尊厳と自立 医療の倫理 利用者や家族の気持ちの理解など				
3	保健医療制度とチーム医療 保健医療に関する制度 医行為に関する法律など				
4	安全な療養生活 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 救急蘇生法				
5	救急蘇生法の演習				
6	救急蘇生法の演習				
7	清潔保持と感染予防 職員の感染予防 療養環境の清潔・消毒法など				
8	手洗い法・うがい法の演習 消毒液の作り方など				
9	手洗い法・うがい法の演習 消毒液の作り方など				
1 0	健康状態の把握 身体・精神の健康 バイタルサイン 急変状態についてなど				
1 1	バイタルサインとその見方について				
1 2	バイタルサインとその見方について				
1 3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 呼吸のしくみ 呼吸器官のはたらきなど				
1 4	いつもと違う呼吸状態 痰を排出するしくみ 痰の貯留・吸引とはなど				
1 5	人工呼吸器と吸引 人工呼吸器が必要な状態 人工呼吸器のしくみ 気管カニューレなど				
1 6	人工呼吸器装着者の生活上の留意点 呼吸器管理に関する医療職との連携				
1 7	子供の吸引の留意点 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応 説明と同意				
1 8	呼吸器系の感染と予防 痰の吸引により生じる危険、事後の安全確認など				
1 9	痰の吸引実施手順 吸引の必要物品 吸引器・器具・器具のしくみなど				
2 0	吸引の技術と留意点 必要物品の準備 利用者の状態観察と留意点 プライバシー保護				
2 1	吸引の技術と留意点 吸引実施の手順と留意点 吸引実施後の観察				
2 2	基本研修（演習）オリエンテーション				
2 3	痰吸引研修（口腔 5 回以上）				
2 4	痰吸引研修（口腔 5 回以上）				
2 5	痰吸引研修（口腔 5 回以上）				
2 6	痰吸引研修（鼻腔 5 回以上）				
2 7	痰吸引研修（鼻腔 5 回以上）				
2 8	痰吸引研修（鼻腔 5 回以上）				

2 9	痰吸引研修（鼻腔 5回以上）
3 0	痰吸引研修（鼻腔 5回以上）
3 1	痰吸引研修（気管カニューレ 5回以上）
3 2	痰吸引研修（気管カニューレ 5回以上）
3 3	痰吸引研修（気管カニューレ 5回以上）
3 4	痰吸引研修（気管カニューレ 5回以上）
3 5	経管栄養研修（胃ろう 5回以上）
3 6	経管栄養研修（胃ろう 5回以上）
3 7	経管栄養研修（胃ろう 5回以上）
3 8	経管栄養研修（胃ろう 5回以上）
3 9	経管栄養研修（腸ろう 5回以上）
4 0	経管栄養研修（腸ろう 5回以上）
4 1	経管栄養研修（腸ろう 5回以上）
4 2	経管栄養研修（腸ろう 5回以上）
4 3	経管栄養研修（経鼻経管栄養 5回以上）
4 4	経管栄養研修（経鼻経管栄養 5回以上）
4 5	経管栄養研修（経鼻経管栄養 5回以上）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「医療的ケア」（中央法規）
使用機器等	
成績評価の方法	筆記試験、実技試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
英会話 I		リチャード・ジョン・ムーン		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	1 年生教室	不定期
実務経験	本科目は、英会話教師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	英語で話そう				
到達目標及び及び 事前学習	英語での基礎的コミュニケーション技術を身につける。				
1	会話の基礎① 文の構造 時制				
2	文の種類 前置詞・接続詞				
3	英文を読んでみよう				
4	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ①自己紹介				
5	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ②家族と友達				
6	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ③家と私の町				
7	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ④余暇と休暇				
8	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ⑤テレビと映画				
9	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ⑥食べ物と飲み物				
1 0	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ⑦行き先案内				
1 1	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ⑧旅行				
1 2	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ⑨将来				
1 3	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ⑩歌を歌おう				
1 4	E N G L I S H C O M M U N I C A T I O N ⑩歌を歌おう				
1 5	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	Happy English for childcare (近畿大学九州短期大学)				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
情報処理入門 I		三宅 聡美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	情報処理室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、パソコン教室講師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	インターネット、Word (ワード)・Excel (表計算)、パワーポイント (プレゼンテーション)				
到達目標及び及び 事前学習	パソコン通信やインターネットの情報社会に適応できるように、パソコンの基本的な仕組みや知識を理解する。				
1	コンピューターの仕組み				
2	パソコンの基本操作				
3	パソコンの基本操作				
4	ファイル、フォルダの作成保存				
5	文字入力、変換、表の作成				
6	表現力アップ				
7	壁紙の作成				
8	Word の基本動作				
9	Word の基本動作				
1 0	Word の基本動作				
1 1	PowerPoint の基本動作				
1 2	PowerPoint の基本動作				
1 3	PowerPoint の基本動作				
1 4	Excel の基本動作				
1 5	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	情報処理 I (近畿大学九州短期大学)				
使用機器等					
成績評価の方法	総合演習、授業態度				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
音楽表現技術		城 明久・城 なおみ		1・2・3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実技	6 (180)	音楽室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、ピアノ教室講師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	楽譜、音程、学識、演奏、実技				
到達目標及び及び 事前学習	楽譜の決まりから音楽の全般にわたって、基礎から専門的な音楽に至るまでのプロセスを学ぶ。				
授業の概要	ピアノ、声楽ともに個人レッスンを重ね、実技試験に挑んでもらう。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	ピアノの基礎				
2	ピアノの基礎				
3	ピアノの基礎				
4	ピアノの基礎				
5	ピアノの基礎				
6～90	演習 ピアノ教則に従い練習・テスト				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「ピアノ教本」「声楽教本」				
使用機器等	ピアノ、ヘッドホン、イヤホンジャック				
成績評価の方法	ピアノ・声楽 実技試験				
備考	教科書「ピアノ教本」「声楽教本」				

授業科目名		担当講師名		対象学年	
幼児の心理学		水野 泉		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、公認心理士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	発達理論 心理学的知識				
到達目標及び 事前学習	1 保育実践に関わる発達理論等の心理学知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	発達を捉える視点				
2	子どもの発達と環境				
3	発達理論と子ども観・保育観				
4	社会的情動的発達				
5	身体的機能と運動機能の発達				
6	認知の発達				
7	言語の発達				
8	子どもの学びと保育				
9	乳幼児期の学びに関わる理論				
1 0	乳幼児期の学びの過程特性				
1 1	乳幼児期の学びを支える保育				
1 2	演習 保育における人との相互的関わりや体験				
1 3	演習 保育における人との相互的関わりや体験				
1 4	演習 保育における人との相互的関わりや環境				
1 5	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	対話的・深い学びの保育内容 人間関係				
使用機器等					
成績評価の方法	提出レポート 筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
教育原理		白田 佑美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、養護学校教諭として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	教育学、幼児教育、保育				
到達目標及び及び 事前学習	教育の本質と意義を理解、教育に関する基礎的な概念と体系的な知識を習得する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	・教育とは何か				
2	〃				
3	・幼児教育思想の歴史				
4	・教育制度の成立と幼児教育の展開				
5	・戦後日本における教育の再出発				
6	・教育の法規と制度の基礎				
7	・諸外国における教育・保育				
8	・教育の方法				
9	・教育の内容				
1 0	〃				
1 1	・教育の計画評価				
1 2	〃				
1 3	・現代社会と生涯学習				
1 4	・教育/保育現場をめぐる現代課題				
1 5	・まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「保育のための教育原理」				
使用機器等					
成績評価の方法	提出レポート 筆記試験				
備考					

授業の概要	第1章 教育とは何か 第2章 幼児教育思想の歴史 第3章 教育制度の成立と幼児教育の展開 第4章 戦後日本における教育の再出発 第5章 教育の法規と制度の基礎 第6章 諸外国における教育・保育 第7章 教育の方法 第8章 教育の内容 第9章 教育の計画評価 第10章 現代社会と生涯学習 第11章 教育/保育現場をめぐる現代課題 第12章 連携による教育・保育 教育の意味、目的と条件、学校制度、教育行政、教材、教育課程、教育の方法、生活指導の意義、生活指導の方法
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	教科書「保育のための教育原理」
使用機器等	
成績評価の方法	・科目終末試験・レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
幼児と言葉		益満 久美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、幼稚園教諭として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	豊かな言葉 表現 想像				
到達目標及び 事前学習	人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について説明ができる。 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について基礎的な知識を身につける。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	言葉の意義や機能を学ぶ				
2	言葉の発達と理解				
3	絵本を生かした保育と絵本の紹介				
4	〃				
5	幼児における児童文化財				
6	子どもの言葉と表現力				
7	〃				
8	お話作り				
9	〃				
1 0	読み聞かせの意義と魅力				
1 1	読み聞かせの実践における工夫				
1 2	言葉を楽しむための言葉遊び、文字遊び				
1 3	言葉の発達と表現力				
1 4	〃				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	新保育内容シリーズ【新訂】「子どもと言葉」 岡田 明 編 萌文書林 「幼稚園教育要領」				
使用機器等					
成績評価の方法	提出レポート 筆記試験				
備考					

授業の概要	言葉の維持や機能、言葉の発達と理解、お話作り、子どもの言葉と表現力、言葉を楽しむための言葉遊び、文字遊び、言葉の発達と表現力を養う。 ① 言葉の意義や機能 ② 言葉の発達と理解 ③ 絵本を生かした保育と絵本の紹介 ④ お話作り ⑤ 幼児における児童文化財 ⑥ 子どもの言葉と表現力 ⑦ 読み聞かせの意義と魅力 ⑧ 読み聞かせの実践における工夫 ⑨ 言葉を楽しむための言葉遊び、文字遊び ⑩ 言葉の発達と表現力
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	新保育内容シリーズ【新訂】「子どもと言葉」 岡田 明 編 萌文書林 「幼稚園教育要領」
使用機器等	
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
幼児と環境		嘉原 カヲリ		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育				
到達目標及び 事前学習	幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。「環境とかかわる力」の発達について理解する。また、子どもの育ちにとって大切にされているものを知る。特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる。幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容・変遷について学習する。「環境にかかわる力」の発達について学び保育の実践例を通して具体的生活体験を重視した保育指導力を養い、実践上の留意点を考慮した総合的な指導力を養う。				
1	保育の基本と保育内容				
2	領域「環境」のねらいと内容				
3	「環境とかかわる力」への発達				
4	「環境とかかわる力」への理解				
5	領域「環境」と保育方法				
6	領域「環境」の変遷				
7	領域「環境」と保育の実際Ⅰ（自然・身近な物）				
8	〃				
9	領域「環境」と保育の実際Ⅱ（文字・数量・地域社会）				
10	〃				
11	領域「環境」と実践上の留意点Ⅰ（自然）				
12	〃				
13	領域「環境」と実践上の留意点Ⅱ（身近な物・文字・数量）				
14	〃				
15	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	保育内容「環境」（ミネルヴァ）				
使用機器等					
成績評価の方法	レポート、筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
社会的養護 I		津村 文和		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士及び社会福祉主事（相談指導員）として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	子ども、社会的養護、施設養護、家庭養護、虐待、家庭支援				
到達目標及び 事前学習	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。				
1	社会的養護の理念と概念				
2	社会的養護の歴史的変				
3	子どもの人権擁護と社会的養護				
4	社会的養護の基本原則				
5	社会的養護における保育士等の倫理と債務				
6	社会的養護の制度と法体系				
7	社会的養護のしくみと実施体系				
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク				
9	社会的養護の対象と支援の在り方				
1 0	家庭養護と施設養護				
1 1	社会的養護にかかわる専門職				
1 2	社会的養護に関する社会的状況				
1 3	施設等の運営管理の現状と課題				
1 4	被措置児童等の虐待防止の現状と課題				
1 5	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	新・基本保育シリーズ⑥「社会的養護 I」				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
教育課程総論		川西 基博		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、高校教諭として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	幼稚園教育、保育所保育、幼児教育課程				
到達目標及び 事前学習	幼稚園において、教育を進めるための計画を自主的に編成できる力を養う。 幼児期の特質、教育課程の意義と方向、幼稚園教育と保育所保育、教育課程編成の基準、幼児教育課程の基本、基礎となる幼児の姿、目的・目標・ねらい・内容・指導計画の作成、教育課程の評価				
1	幼児期の特質				
2	教育課程の意義と方向				
3	幼稚園・保育所・認定こども園				
4	教育課程の基準				
5	幼児教育課程の基本				
6	基礎となる幼児の姿				
7	目的・目標・ねらい・内容				
8	〃				
9	〃				
1 0	教育課程の編成と指導計画の作成				
1 1	〃				
1 2	教育家庭の評価				
1 3	教育課程と指導計画の実例				
1 4	〃				
1 5	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「新しい幼児教育課程総論」				
使用機器等					
成績評価の方法	・科目終末試験・レポート				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
教育方法論		益満 久美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、幼稚園教諭として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	乳幼児期、教育、保育、遊び、幼児教育、小学校教育				
到達目標及び 事前学習	教育の方法に関する理論的知識を習得する。乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し、説明できる。保育現場における実践を構想できる。幼児期にふさわしい教育方法。幼児の主体的な生活を基盤とする保育。遊びのなかまの学びを育む保育。方法としてのさまざまな保育形態。保育における評価。幼児期の教育と小学校教育の関係				
1	幼児期にふさわしい教育の方法				
2	幼児の主体的な生活を基盤とする保育				
3	〃				
4	遊びのなかまの学びをはぐくむ保育				
5	〃				
6	方法としてのさまざまな保育形態				
7	保育における評価				
8	幼児期の教育と小学校教育				
9	〃				
1 0	家庭や地域と連携した保育				
1 1	〃				
1 2	保育におけるカウンセリングマインド				
1 3	〃				
1 4	〃				
1 5	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	新・保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る「幼児教育の方法」（北大路書房）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
教職概論				1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、幼稚園教諭として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	教育、教師、カウンセリングマインド、教育実習				
到達目標及び 事前学習	教育の現場におけるいじめ、不登校・学級崩壊など教育病理の様々な事態に対応し、子どもたちの育成に携わることのできる能力を養う。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	教師の歴史				
2	教師の資質				
3	カウンセリングマインド				
4	教師の力量				
5	勤務成績の評定				
6	教師による懲戒				
7	教職観				
8	教師と父母組織				
9	学校の情報公開				
1 0	教育実習の意義				
1 1	教育実習				
1 2	学校管理規則				
1 3	教師の専門性				
1 4	〃				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	教科書「教職入門」				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
子ども家庭福祉		吉村 喜美代		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	子ども、人権擁護、家庭福祉、少子化、子ども虐待・DV、地域連携				
到達目標及び 事前学習	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷				
2	〃				
3	子どもの人権擁護				
4	〃				
5	子ども家庭福祉の制度と実施体系				
6	〃				
7	子ども家庭福祉の現状と課題				
8	〃				
9	〃				
10	〃				
11	子ども家庭福祉の動向と展望				
12	〃				
13	〃				
14	〃				
15	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	「児童家庭福祉 子どもと家庭を支援する」[第3版] 大津 泰子著				
使用機器等					
成績評価の方法	・科目終末試験・レポート				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
保育原理		吉村 喜美代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	保育の基本 保育の内容と方法の基本 保育の思想と歴史的変遷				
到達目標及び 事前学習	子どもたちのさまざまな姿や行為について考え、理解していこうとする際に手がかりとなる視点や子どもがもっている発達の意味を読み解いていくための視点について保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識をもつことを目標とする。保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本、保育の思想と歴史的変遷。保育の計画と実践。家庭支援と子育て支援。保育の現状と課題について考察する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	乳幼児期の特徴と保育の意義				
2	保育思想と児童観の変遷				
3	保育施設・制度の創設と発展				
4	各国の保育				
5	わが国における幼稚園・保育所の設立と変遷				
6	保育の目的				
7	保育の内容・方法・計画・評価				
8	健康・安全と障がいのある子どもへの対応				
9	保育者に求められるもの				
1 0	家庭支援と子育て支援				
1 1	保育の評価と苦情処理及び保育者の研修				
1 2	保育の現状と課題				
1 3	さまざまな保育と課題				
1 4	保育の演習・計画と実践				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	「保育原理」 田代 勢津子 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
使用機器等					
成績評価の方法	授業への積極的参加 (20%) 筆記試験 (80%)				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
幼児への特別な支援		大山 周子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	障害児、発達支援、障害児保育、家庭、インクルーシブ保育、信頼関係、多職種連携				
到達目標及び 事前学習	・ 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について、障害児及びその保育について理解する。様々な障害について、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する。 ・ 障害のある子どもの保育の計画作成、個別支援及び他の子どもとの関わりのなかで育ちあう保育実践を理解する。障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 ・ 障害のある子どもの保育に関わる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	障害児保育とは何か				
2	障害児保育の仕組み				
3	知的障害の特徴と保育での支援				
4	自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援				
5	注意欠陥・多動性障害の特徴と保育での支援				
6	学習障害の特徴と保育での支援				
7	その他の障害の特徴と保育での支援				
8	インクルーシブ保育とは				
9	保育所・幼稚園での支援体制				
1 0	家族への支援				
1 1	障害児のアセスメント				
1 2	〃				
1 3	発達支援の技法				
1 4	〃				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	よくわかる「障害の理解」				
使用機器等					
成績評価の方法	実践				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
子どもの保健		富川 佳余子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	成長と発達、生理機能、小児の病気、乳幼児、保健管理、救急処置				
到達目標及び 事前学習	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。子どもの身体的な発育、発達と保健について理解する。子どもの疾病とその予防及び他職種間の連携・協働の下で適切な対応について理解する。成長と発達、生理機能の発達、小児の病気・栄養、小児保健統計、新生児・未熟児、疾病の予防、乳幼児の健康管理、乳幼児の生活、保育所における保健管理、安全管理と安全教育、救急処置				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	子どものための小児保健				
2	身体発育と保健				
3	生理機能の発達と保健				
4	運動機能の発達と保健				
5	精神機能の発達と保健				
6	子どもの精神保健				
7	子どもの生活と健康				
8	子どもの疾病と保育 (1)				
9	子どもの疾病と保育 (2)				
1 0	環境整備、事故防止と安全管理				
1 1	〃				
1 2	保健活動の計画及び評価				
1 3	〃				
1 4	〃				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	よくわかる「障害児保育」(ミネルヴァ 書房)				
使用機器等					
成績評価の方法	・科目終末試験・レポート				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
保育の心理学		朝沼 めぐみ		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、公認心理士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	子どもの発達 特性				
到達目標及び 事前学習	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学び過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	発達って何だろう				
2	〃				
3	誕生時からある不思議な能力				
4	〃				
5	コミュニケーションの基礎ができる				
6	〃				
7	感覚からイメージの世界へ				
8	〃				
9	「わたし」と「あなた」の違いに気づく				
1 0	〃				
1 1	思考力がつき、人間関係が発達する				
1 2	〃				
1 3	子どもと大人の間で揺れ動く				
1 4	変化し続けるところとからだ				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	「保育の心理学」(みらい)				
使用機器等	パソコン プロジェクター				
成績評価の方法	レポート提出 筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
子ども家庭支援の心理学		吉村 喜美代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	生涯発達、家族・家庭、精神保健				
到達目標及び 事前学習	・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係等について発達の理解し、子どもとその家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	乳幼児期の発達				
2	幼児期の発達				
3	学童期の発達				
4	青年期の発達				
5	成人期・中年期の発達				
6	高齢期の発達				
7	家族・家庭の意義と機能				
8	家族関係・親子関係の理解				
9	子育ての経験と親としての育ち				
1 0	子育てを取り巻く社会的状況				
1 1	ライフコースと仕事・子育て				
1 2	多様な家庭とその理解				
1 3	特別な配慮を要する家庭				
1 4	子どもの生活・生育環境とその影響				
1 5	子どものこころの健康にかかわる問題				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	新・基本保育シリーズ⑨「子ども家庭支援の心理学」(中央法規)				
使用機器等	パソコン				
成績評価の方法	レポート・筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
教育相談		益満 久美		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、幼稚園教諭として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	家庭教育、幼稚園教育、カウンセリング、カウンセリング・マインド				
到達目標及び 事前学習	家庭教育と幼稚園教育の連携の視点に立ち、教育現場で起こる様々な問題に適切に対処できるよう、カウンセリングに関する基礎的知識を学び、教育現場において教育者がカウンセリング・マインドを持ち、子どもたちや親・養育者に対する基本的援助方法を学ぶ。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	カウンセリングと心理療法				
2	ロジャースの 3 原則				
3	治療的カウンセリング				
4	育てるカウンセリングの具体例				
5	自己主張訓練				
6	思考の教育				
7	個性を育てる教育				
8	不登校・いじめについて				
9	〃				
1 0	臨床心理士の活動領域				
1 1	心理判定				
1 2	面接について				
1 3	〃				
1 4	統合失調症				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	テキスト 相談援助				
使用機器等					
成績評価の方法	・科目終末試験・レポート				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
保育・教職実践演習		水野 富美乃		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、幼稚園教諭として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	グループワーク（課題設定・現状分析・検討）、研究発表				
到達目標及び 事前学習	保育士、幼稚園教諭としての使命感、教育的愛情について省察する。社会性や対人関係能力を身につける。保育内容等の指導力についての基本的事項を身につける。 保育士、幼稚園教諭としての必要なコミュニケーション能力を習得する。 学生自身が必要に応じて自己の資源と能力の向上に努めることができるよう、発表、議論・ロールプレイを行う。KJ 法を学習で発表する。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	保育者としての自己分析				
2	〃				
3	保育者としての社会的使命と役割				
4	保育者としての教育的愛情				
5	保育・教育職の意義と職務内容				
6	家庭・地域社会との連携				
7	〃				
8	こども・保護者との信頼関係の構築				
9	〃				
1 0	保育士に必要なコミュニケーション能力				
1 1	〃				
1 2	討論、資料作り				
1 3	〃				
1 4	発表				
1 5	まとめ（終講試験）				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	「保育・教職実践演習」（近畿大学九州短期大学）				
使用機器等					
成績評価の方法	発表、筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
乳児保育Ⅰ		嘉原 カヲリ		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	乳児、妊娠、発達段階、人間関係、家庭保育、集団保育				
到達目標及び 事前学習	乳児の発達段階の特徴をおさえるとともに実際の遊びを体験しながら、乳児保育の実践的知識を求める。				
授業計画 (コマ)	授 業 内 容				
1	子育ての基本は乳児期—子どもが主体的に育つには				
2	0～3 カ月「肌で安心・愛情を感じる」				
3	4～6 カ月「あやすおとな、聴く子ども」				
4	7～9 カ月「自分でひろげる外界」				
5	1 0～1 2 カ月「信頼するおとなとの共同」				
6	1 3～1 5 カ月「わたしを見ていて—アタッチメントの形成」				
7	1 6～2 4 カ月「少しぼくにまかせて—母子分離」				
8	2 5～3 6 カ月「ひとりでできるよ—自律から自立へ」				
9	流れる日課と担当制—子どもが安心して過ごせるように				
1 0	0 歳児クラス—子どもとおとなの 1 日の流れ				
1 1	1 歳児クラス—子どもとおとなの 1 日の流れ				
1 2	2 歳児クラス—子どもとおとなの 1 日の流れ				
1 3	乳児のあそびと環境づくり—子どもの発達に応じた空間・道具の整備				
1 4	乳児のあそび道具一覧				
1 5	まとめ (終講試験)				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	テキスト「はじめて学ぶ 乳児保育」				
使用機器等					
成績評価の方法	・試験・レポート				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
保育実習		吉村 喜美代		2・3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	6 (180)	実習	後期	実習計画の通り	
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による指導のものと実習				
授業のキーワード	理論や技術を実践との繋がりを理解する				
到達目標及び及び 事前学習	保育所の内容、機能などを実地の体験を通して理解する。また、保育士の職務内容、役割などを体験的に学ぶ。その他に、保育所の集団としての児童及び個人としての児童について学ぶ。				
授業計画(コマ)	授 業 内 容				
1～30	見学実習、観察実習、参加実習 (10日間) ・保育所における子どもの理解。 (年齢、月齢ごとの子どもの発達とその特徴など) ・保育所における保育士の職務内容、役割などを理解する。 担当保育士の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。				
31～90	部分実習、全日実習 (20日間) ・授業計画に基づいた実践と評価 ・実習日誌への記録、事後指導				
履修上の要件	保育実習の期間は実日数10日以上				
テキスト、教材、 参考書	幼稚園・保育所・児童福祉施設ガイド」石橋裕子他 同文書院				
使用機器等					
成績評価の方法	① 実習日誌・事後レポートなどの提出物50％ ② 実習園の評価30％ ③勤務状況等20％				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
教育実習		吉村 喜美代		2・3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	4 (120)	実習	2年後期 3年前期	実習計画の通り	
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による指導のものと実習				
授業のキーワード	理論や技術を実践との繋がりを理解する				
到達目標及び及び 事前学習	教育実習は、通信教育を通じて修得してきた知識や技能を、体験お通して実際の教育現場で実践することにより、幼児教育に対する理解を深めるとともに、現場における指導技術や実践活動を通して学び、教育者としての精神の向上と、資質を高めることを目標とする。 実習の目的、教育実習の内容、実習オリエンテーション、見学実習、観察実習、参加実習、部分実習、全日実習、実習日誌への記録、事後指導				
授業計画(コマ)	授 業 内 容				
1～30	幼稚園実習(10日間) 1. 幼稚園の内容、機能について理解 (幼稚園の1日の流れやプログラムの理解) 2. 幼稚園における子どもの理解。 (年齢、月齢ごとの子どもの発達とその特徴など) 3. 幼稚園における教員の職務内容、役割などを理解する。 4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ				
31～60	幼稚園 or 施設実習(10日間) 1. 幼稚園 or 施設の内容、機能について理解 (1日の流れやプログラムの理解) 2. 幼稚園 or 施設における職務内容、役割などを理解する。 3. 日誌や指導案の書き方を学ぶ				
履修上の要件	教育実習の期間は実日数10日以上				
テキスト、教材、 参考書	幼稚園・保育所・児童福祉施設ガイド」石橋裕子他 同文書院				
使用機器等					
成績評価の方法	① 実習日誌・事後レポートなどの提出物50％ ② 実習園の評価30％ ③勤務状況等20％				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
特別教育活動		谷村 志寿江・福 将太 貞元 希美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	4 (120)	各施設等	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による指導のもとによる行事参加など。				
授業のキーワード	福祉の心				
到達目標及び及び 事前学習	地域（郷土）の行事に参加、高齢者宅への訪問等の活動を通じて情操を養い、思いやりの心を持ち、地域に愛される人材育成を図る。				
1	ボランティアとは				
2	学校行事とは				
3	季節の行事とは				
4	地域の行事とは				
5	施設における行事とは				
6	保育園における行事とは				
7	幼稚園における行事とは				
8	地域ボランティアの実践				
9	地域ボランティアの実践				
1 0	地域ボランティアの実践				
1 1	地域ボランティアの実践				
1 2	地域ボランティアの実践				
1 3	地域ボランティアの実践				
1 4	クリーンキャンペーンの実践（高齢者施設）				
1 5	クリーンキャンペーンの実践（高齢者施設）				
1 6	クリーンキャンペーンの実践（高齢者施設）				
1 7	クリーンキャンペーンの実践（高齢者施設）				
1 8	クリスマス交流会にむけての計画・準備・実践				
1 9	クリスマス交流会にむけての計画・準備・実践				
2 0	クリスマス交流会にむけての計画・準備・実践				
2 1	クリスマス交流会にむけての計画・準備・実践				
2 2	クリスマス交流会にむけての計画・準備・実践				
2 3	クリスマス交流会にむけての計画・準備・実践				
2 4	健寿大学（福祉フェスタ）にむけての計画・準備・実践				
2 5	健寿大学（福祉フェスタ）にむけての計画・準備・実践				
2 6	健寿大学（福祉フェスタ）にむけての計画・準備・実践				
2 7	健寿大学（福祉フェスタ）にむけての計画・準備・実践				
2 8	健寿大学（福祉フェスタ）にむけての計画・準備・実践				

29	健寿大学（福祉フェスタ）にむけての計画・準備・実践
30	進路ガイダンスへの参加
31	進路ガイダンスへの参加
32	進路ガイダンスへの参加
33	進路ガイダンスへの参加
34	進路ガイダンスへの参加
35	進路ガイダンスへの参加
36	地域ボランティアの実践
37	地域ボランティアの実践
38	地域ボランティアの実践
39	地域ボランティアの実践
40	地域ボランティアの実践
41	地域ボランティアの実践
42	交通安全呼びかけボランティア活動の参加
43	交通安全呼びかけボランティア活動の参加
44	交通安全呼びかけボランティア活動の参加
45	交通安全呼びかけボランティア活動の参加
46	福祉施設でのボランティア実践
47	福祉施設でのボランティア実践
48	福祉施設でのボランティア実践
49	福祉施設でのボランティア実践
50	保育園でのボランティア実践
51	保育園でのボランティア実践
52	保育園でのボランティア実践
53	幼稚園でのボランティア実践
54	幼稚園でのボランティア実践
55	幼稚園でのボランティア実践
56	幼稚園でのボランティア実践
57	クリーンキャンペーンの実践（保育園・幼稚園）
58	クリーンキャンペーンの実践（保育園・幼稚園）
59	クリーンキャンペーンの実践（保育園・幼稚園）
60	クリーンキャンペーンの実践（保育園・幼稚園）
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	
使用機器等	
成績評価の方法	出席状況、実践力、積極的態度的評価

授業科目名		担当講師名		対象学年	
レポート指導		嘉原 カヲリ		1・2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (60)	1・2年生 教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、保育士として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	書写、段落まとめ、口語文法、読む、分析、書く				
到達目標及び及び 事前学習	課題に沿ったレポート作成能力を養う。				
1	記述前準備事項について				
2	①設題の理解について				
3	文献について				
4	レポート形式と書き方について				
5	レポートの作成演習				
6	レポートの作成演習				
7	レポートの作成演習				
8	レポートの作成演習				
9	レポートの確認、訂正				
10	レポートの確認、訂正				
11	②設題の理解について				
12	文献について				
13	レポート形式と書き方について				
14	レポートの作成演習				
15	レポートの作成演習				
16	レポートの作成演習				
17	レポートの作成演習				
18	レポートの確認、訂正				
19	レポートの確認、訂正				
20	天声人語によるレポート作成演習				
21	天声人語によるレポート作成演習				
22	天声人語によるレポート作成演習				
23	天声人語によるレポート作成演習				
24	天声人語によるレポート作成演習				
25	天声人語によるレポート作成演習				
26	天声人語によるレポート作成演習				
27	天声人語によるレポート作成演習				
28	天声人語によるレポート作成演習				

2 9	レポートの確認、訂正
3 0	レポートの確認、訂正
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	レポート設題集（近畿大学九州短期大学通信教育部保育科） 新聞記事等の資料
使用機器等	
成績評価の方法	・筆記試験・レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
国家試験対策		谷村 志寿江・福 将太 貞元 希美		1・2・3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	3 (90)	各学年教室	通年	不定期	不定期
実務経験	本科目は、介護福祉士及び介護支援専門員として実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケア、総合問題、				
到達目標及び及び 事前学習	知識・技術ともに質の高い介護福祉士を目指し、国家試験合格に向けての対策に取り組む。				
1	介護福祉士国家試験対策へのガイダンス				
2	介護福祉士の現状と国家試験対策				
3	演習① 国家試験問題				
4	演習① 国家試験問題				
5	解説① 国家試験問題				
6	解説① 国家試験問題				
7	模擬試験①				
8	模擬試験①				
9	解説 模擬試験①				
10	解説 模擬試験①				
11	演習② 国家試験問題				
12	演習② 国家試験問題				
13	解説② 国家試験問題				
14	解説② 国家試験問題				
15	模擬試験②				
16	模擬試験②				
17	解説 模擬試験②				
18	解説 模擬試験②				
19	合格ドリルの自己学習				
20	合格ドリルの自己学習				
21	合格ドリルの自己学習				
22	合格ドリルの自己学習				
23	演習③ 国家試験問題				
24	演習③ 国家試験問題				
25	解説③ 国家試験問題				
26	解説③ 国家試験問題				
27	模擬試験③				

2 8	模擬試験③
2 9	解説 模擬試験③
3 0	解説 模擬試験③
3 1	合格ドリルの自己学習
3 2	合格ドリルの自己学習
3 3	合格ドリルの自己学習
3 4	合格ドリルの自己学習
3 5	演習④ 国家試験問題
3 6	演習④ 国家試験問題
3 7	解説④国家試験問題
3 8	解説④国家試験問題
3 9	模擬試験④
4 0	模擬試験④
4 1	解説 模擬試験④
4 2	解説 模擬試験④
4 3	国家試験自己学習・解説
4 4	国家試験自己学習・解説
4 5	国家試験自己学習・解説
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	中央法規「書いて覚える！合格ドリル 2020」
使用機器等	
成績評価の方法	筆記・模擬テストの平均
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
レクリエーション支援Ⅰ		山田 豊弘		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	1 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、レクリエーション指導員として、実務経験のある教員による講義。				
学修内容	レクリエーションの意義、レクリエーション運動を支える制度、地域とレクリエーション 等				
到達目標及び及び 事前学習	レクリエーション支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。				
1	レクリエーションの意義				
2	レクリエーション運動を支える制度				
3	レクリエーション・インストラクターの役割				
4	レクリエーション活動の 2 つの楽しさ				
5	〃				
6	レクリエーション支援とは				
7	信頼関係づくりの方法				
8	良好な集団づくりの方法				
9	自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法				
1 0	子どものレクリエーション				
1 1	〃				
1 2	高齢者のレクリエーション				
1 3	〃				
1 4	地域におけるレクリエーション				
1 5	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	テキスト 楽しさをとoshita心の元気づくり（日本レクリエーション協会）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					

授業科目名		担当講師名		対象学年	
レクリエーション支援Ⅱ		山田 豊弘・福 将太		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	2年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、レクリエーション指導員として、実務経験のある教員による講義。				
授業のキーワード	コミュニケーション技法 集団レクリエーション・ワーク				
到達目標及び及び 事前学習	レクリエーション支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解し、身近な人びとを支援する活動・事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身につける。				
1	ホスピタリティの示し方について				
2	コミュニケーションをとるために必要な態度・行動とは				
3	アイスブレイキングの意義と基本技術とは				
4	アイスブレイキングのプログラミングとは				
5	対象にあわせたレクリエーション・ワークの基本技術				
6	〃				
7	〃				
8	対象にあわせたレクリエーション・ワークの段階的アレンジ法の応用				
9	〃				
10	〃				
11	レクリエーションの安全管理の方法				
12	実習にむけてのプログラムの立案				
13	〃				
14	実習でのレクリエーションの評価				
15	終講試験				
履修上の要件					
テキスト、教材、 参考書	テキスト 楽しさをとおした心の元気づくり（日本レクリエーション協会）				
使用機器等					
成績評価の方法	筆記試験				
備考					